



マスコミ青山

会報

Nov.2011 No.32

史上最年少で角川短歌賞受賞

現代短歌新人賞、梅花文学賞受賞

青学大卒の才媛歌人

小島なおさん

—歌を作り始めたきっかけは？—

母が、歌人という仕事をずっと昔からしていて、私は幼いころから母の仕事で使うほかの方の歌集や資料を、普通の本を読むような感覚で目を通していました。短歌というものは自分にとって特別なものではなくて…。なので、なんとなく「作れるんじゃないか」という思いつき。それが、高校の二年生くらいのときです。

—最初に作った歌は？—

「乱反射」に収められている、浸透圧の歌です。

天井に水面が映り水の夢

—そのとき、お母様の反応は。—

「結構いいじゃんって、割と褒めてもらいましたね(笑)そのときは自信作だったので、もう7年くらい前の歌なので、やっぱり今見ると恥ずかしいですね。



profile

1986年東京都生まれ。
93年から2年間在米。
2004年青山学院高等部在学中
角川短歌賞受賞。
2007年コスモス短歌会入会。
同年歌集『乱反射』刊行。
現代短歌新人賞、梅花文学賞受賞。
2009年青山学院大学卒業。
現在、会社員。

—友達についての歌は。—

このときはまだ異性や同性問わず、自分以外の人を詠むっていうのがとても苦手で。日常生活は友達との触れ合いがあったのですが、自分と他人の関係をうまく短歌に昇華できなくて。「乱反射」の時は「ひとり」の歌や、自分の中の世界を詠んだものが多かったです。

—第二歌集「サリンジャー」は死んでしまった—
た—について、なぜサリンジャーを持ってきたのでしょうか。

サリンジャーの代表的な本は「ライ麦畑でつかまえて」ですが、昔この本を読んだときに、私小説じゃないですが心の中の吐露が多く、物語も展開が遅くて、すくもやもやとしたものが残ったんです。でもそれこそが青春なのだ。私の中でずっと合致するところがありまして、強心の中に残ってたんですよ。

そして去年、サリンジャーが亡くなってしまつて。青春小説に名を遺したサリンジャー。私も、次元は違いますが学生時代を終え、社会人になりました。そういった意味を重ねてこのタイトルに決めました。

—学生から社会人へと環境が変わり、歌への変化や影響は。—

大きな変化がありました。学生時代は短歌を、周りに比べて地味だとか自分自身で誇れない部分がありました。でも社会人になると、年上の人と関わる機会も増えて周りの人たちの精神年齢も上がつて。すると、学生時代に比べてそういうものに対してすごく素直に受け止めてくれて、純粋に興味を持ってくれるんです。周りの環境が変わつたことで、私自身も短歌というものを誇りに思うようになり、すごく真摯な姿勢で短歌と向き合うことが出来るようになりました。今ではなにか雑誌やテレビに出たりするときは、先輩に宣伝していただきます。応援してくださる方がいることも心強いです。

—小島さんが考える短歌の魅力は。—

定型である、ということですね。31音は、制限されているからこそ魅力的なのだと思います。表現の発端は自身のものでそれを説明しすぎるといふのも押しつけがましいしうか。ただ俳句まで短くなつてしまふと、季語もあまり少し制限が強いかなど、自分の世界を表現した上で、丁度いいところで止めておけるので、読む側にとっても新しく消化出来ると思うんです。全然違うとらえ方をしてもそれがまた魅力。

—会報に載せたい句を、2首！—

やはり「サリンジャー」から。こちらの方が、つい最近作ったものも入っている。何が良かな…自信作を載せたい！(笑)

一つ目はこれです。ザ・青春。ふかくふかく潜水をせよ

苦しみに似た輝きをくぐる青春
二つ目はこれです。

死に向かう時間を強く意識せよ

祖父はいつかの獅子座流星群

—この歌はどのようなときに？—

祖父が認知症になつてしまつて、大好きな祖父がだんだん変わつてしまふ姿を見ると、本当にもう、どうしようもないというか。悲しみよりもっと、死が自分の中に入つてくる。死んでいく姿は、悲しいけれどそれだけでなく、純粋なものに戻っていくような気がします。流れて消えるけど、爆発して…という星の時間と、似ているのではないかと。死という大きなテーマ、それを歌えたことを感じられる作品です。今後は、もっと飛躍のある歌を作っていきたいです。それが第一で、もう一つは、短歌の可能性を広げたい。音楽と一緒にできたりもすると思えますし、絵画とか、違う表現の分野とコラボレーションすることも可能だと思っています。もっともっと今までなかった短歌の世界を、私の短歌で広げていきたいらと。たくさんの人に短歌の魅力を知ってほしいですね。

—ありがとうございます。—

映画化された原作
第一歌集「乱反射」
(角川学芸出版刊)



第二歌集
「サリンジャーは
死んでしまった」
(角川学芸出版刊)

いま、ラジオを考える

3・11で変わった生活者のメディア評価

ここ何年もメディアの変貌が言われ続けていますが、今年はその大きなターニングポイントの年として長く語り続けられるのではないかと思います。とくに三・一一の東日本大震災を境にして、生活者のメディアに対する考え方が大きく変わり、なかでもラジオに対する評価が変化しようとしています。今回はこの視点からラジオについて取り上げてみました。

■変わるラジオへの評価

㈱ビデオリサーチでは、震災直後の今年四月、東京三〇キロ圏に居住する男女三〇〇人（二〇歳から六九歳）に対して「震災とラジオに関する調査」を実施しました。その結果を抜粋してみますと

- ・三月十一日の地震発生直後、一〇%が「まず」ラジオに接触
- ・震災当日就寝までに二六、七%がラジオに接触
- ・五割以上が、ラジオに対して「いざというとき頼りになる」というイメージを強めたと回答
- ・約四割が、ラジオは「落ち着いた報道でリスナーを安心させた」という意見に共感

などの興味深い結果が得られました。これらは東京地区での結果ですが、一方震災地である岩手、宮城ではどうだったかと言いますと、社団法人日本新聞協会の調査では震災直後に役立つメディアは、ラジオがトップでした。津波の被害が大きかった両県では停電や通信障害でテレビ、携帯電話が使えず、新聞も避難所によっては届くまでに時間がかかったことから、わずかな電源で動き、避難所に持ち出しやすいラジオの特性が評価されたと思います。

ラジオが新しいメディアとして登場したのが一九二五年（大正十四年）、くしくも二年前に起こった関東大震災による誤った情報の混乱を避けることもその目的だったようです。情報伝達の速報性と正確性は当時の新聞、雑誌よりはるかにすぐれていたと言います。技術やITの進化によるメディアの変化ではなく、震災など外的な要因によってメディアへの接触が変化するのは皮肉な気もしますが、今回の東日本大震災もこれと同じようです。

■ラジオを見直す

ラジオといえますと、私たち団塊の世代では深夜放送で青春を謳歌したものでした。最近では若い世代は車に乗っているときくらいしかラジオを聞かなかつたり、高齢者の深夜ラジオが高聴取率だったりと、かなり偏った評価がさがちです。この震災を契機として、もういちどわたしたちもラジオの魅力を見直し興味をもつことも大切ではないかと思えます。民放連では七月一日、民放ラジオ統一プロジェクトを開始し、ラジオの魅力についての普及活動を今後も続けていくそうです。

（参考：「震災とラジオに関する調査」 <http://www.video.co.jp/>
社団法人日本新聞協会 <http://www.pressnet.or.jp/>）



（民放ラジオ統一プロジェクト“Radio by your Side”より）



民放連に聞く

（社）日本民間放送連盟では、この7月、民放ラジオ局100社参加のもとに統一プロジェクト“Radio by your side～いつもラジオと一緒に～”をスタートさせました。現時点では終了期限は設定せず、通年展開を予定しています。その第一弾として、さまざまな生活シーンを「ラジオと一緒に過ごそう」という呼びかけとともに、“あなたとラジオの関係”をテーマにしたメッセージを募集しました。そのなかのユニークなものは、プロジェクト専用のホームページ(<http://www.radiobyourside.jp>)で公開しています。

またはじめてNHKと組んで、若者たちにもラジオへ関心をもってもらうと渋谷地区で高校生を対象にしたイベント「はじめまして、ラジオです。」を10月2日（日）に実施しました。この震災であらためてラジオの有用性が見直されたので、今後も地域密着メディアとして、生活のなかでラジオを再認識してもらう活動を展開していきたいと思えます。

民放ラジオ統一プロジェクト
“Radio by your side”とは緊急現場レポート
TOKYO FMの場合

被災者の視点に立って...

震災発生直後の14時50分過ぎから特別番組を組み、一週間に渡りCMナシの生放送を実施、音楽の力、言葉の力で被災地のリスナーと全国のリスナーを結びつける番組に切り替えました。これは日頃から心がけている「ヒューマンコンシャス～生命を愛し、つながる心」を実践した内容です。なかでも反響の大きかったのはアニメソングや読み聞かせの番組でした。また多くのアーティストから応援メッセージもいただき、日々の報道でショックを受け、混乱している人々を安心させ、勇気と元気を与えることができたと思います。twitterでも感動したリスナーからの反応が多く見られました。

その後も「ヒューマンケアチーム」を結成し、被災地への支援活動のほか全国38局とのネットで「LOVE&HOPE～ヒューマン・ケア・プロジェクト」などの活動は続いています。この震災でコンテンツそのものが心に響くライフライン以上の存在感があることが実感できました。

（㈱エフエム東京 執行役員 総務局長 村上正光氏 '83年経済卒）

Useful information I

【入館と閲覧】

入口での記帳と身分証明書の提示で可能です。

【貸出】

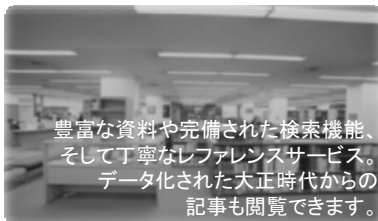
「図書館利用カード」が必要になります。

カード発行に必要なものは…

- ①現住所記載の身分証明書
- ②印鑑
- ③手数料500円 以上3点。

※カード発行には約一週間かかります。

本館(青山)・万代記念図書館(相模原)で調べる!



豊富な資料や完備された検索機能、そして丁寧なレファレンスサービス。データ化された大正時代からの記事も閲覧できます。

Useful information II

購買会の利用で楽しむ!

書籍や雑誌、文房具などが割引価格で利用できます。

また、来店された方は併設の旅行センターでもいろいろな特典があります。

購買会 <http://www.aogaku-kobaikai.com/>

オンラインショッピング <http://agk.shop.com/>

各地の郊外施設を利用しよう!

【八ヶ岳寮・山梨県】

テニスコートやゴルフコースもあり、避暑に最適。

【秋谷海の家・神奈川県】

海水浴やミカン狩り…四季に合わせた活動が魅力。

【白馬ヒュッテ・長野県】

ゲレンデまで徒歩2分! これからの季節にどうぞ。

他にも群馬や軽井沢など、魅力的な施設があります。

詳しくは購買会まで!

Useful information III

懐かしの学生食堂で食べる!



なんととってもこの安さ!

【青山キャンパスMENU】

表参道……………¥400

西郊の森……………¥400

【相模原キャンパスMENU】

日替わり丼……………¥350

相模原ランチ……………¥400

今秋はラーメンフェアも行われます。

昔ながらのビーフシチュー、日替わりニューの「表参道」「西郊の森」…美味しいメニューが揃っております。ボリュームたっぷりの「相模原ランチ」デザートにソフトクリームはいかが?

(※)他にもアイビーホール青学会館では、卒業生専用のスペースで各室を安価で利用できます。お問い合わせは 平日 9:00から17:00 TEL 03-3409-8628)

いま青山キャンパスでは新校舎(十七号館)の建築が急ピッチで進められています。この震災で工期が遅れたとはいえ、二〇一三年度の教育課程の移行を目指し新しい環境に生まれ変わろうとしています。時代の最先端のキャンパスに大きな期待がもたれています。校友の皆様もいちどそんなキャンパスを訪れてみてはいかがでしょうか。意外と知られていないようですが、校友の皆様にはいろいろな特典もあるようです。本部広報部に尋ねてみました。

ご存知でしたか? 校友の皆様こんな特典!

活動報告

【フォーラム21】

「フォーラム21」は年に数回、タイムリーなテーマを選び、勉強会&懇親会を開いています。今年は下記の3回実施しました。どなたでも参加できます。詳しくは集英社サービス(株)福田収(03-5211-2626)(fukuda@hitotsubashi.co.jp)まで。

- 1月26日…(赤坂プリンスホテル40階からの夜景を楽しみながらの懇親会)
- 3月16日…天野昭氏(「ニューメディア」編集主幹)「テレビ界の輝く未来」
- 6月22日…山本翰氏(ボランティア活動家)「大震災の実情とボランティア活動の問題点」

【青年部レポート】

今年のマスコミ業界は「地上波のデジタル化」や「ソーシャルメディアなどデジタル領域の躍進」などの転換期を迎え、活発な意見交換が行われました。また、広告・インターネットを中心に多くの新入社員に恵まれ、今後、懇親会を開催する予定です。テーマのご希望や参加希望の方は中村まで。

masanobunakamura1978@gmail.com

【マスコミQ&A】

マスコミ業界志望の現役学生に対する説明会です。毎年、進路就職センターと共に開催しています。

- 日時:10月12日(水) 18:10~20:40
- 場所:6号館 621教室 ほか
- 内容:マスコミ業界で活躍する卒業生の業界説明と現役内定者による就職活動レポート。「新聞・出版」「放送」「広告・制作・インターネット」の3カテゴリーに分かれて行われます。

■お問い合わせ:青山学院大学 進路就職センター

マスコミ業界就職データ

青山学院大学
マスコミ業界就職状況
全159名(2011年4月現在)

業界別	
【新聞・通信】	4名
【雑誌・出版】	24名
【放送・映像】	30名
【広告・制作・インターネット】	101名
合計	159名

11月19日(土)マスコミ青山会総会開催!

マスコミ青山会総会の日程が決まりました。例年通り土曜日の開催です。総会後の講演では、いま話題の古賀茂明氏をお招きし、現代日本の病根などについてお話を伺う予定です。

講演 古賀茂明氏

(テーマ)

「決別! 日本の病根」

～私たちは何を捨て、何を選択しなければいけないのか～



古賀 茂明(こが・しげあき)氏
プロフィール

1955年、長崎県生まれ。東京大学法学部を卒業後、通商産業省(現・経済産業省)に入省。大臣官房会計課法令審査委員、産業組織課長、OECDプリンシパル・アドミニストレーター、産業再生機構執行役員、経済産業政策課長、中小企業庁経営支援部長などを歴任。

2008年、国家公務員制度改革推進本部事務局審議官に就任し、急進的な改革を次々と提議、「改革派の旗手」として有名に。09年末に審議官を退任したあとでも省益を超えた政策を発信し、公務員制度改革の必要性を訴え続けた。

今年の講師は、先日経産省を辞職したばかりの話題の元キャリア官僚、古賀茂明氏をお招きする。古賀氏は『日本中枢の崩壊』『日本が融けていく』『官僚の責任』の3冊合計95万部のベストセラー作家でもある。

なぜ古賀さんの本がそんなに売れているのか? 古賀さんの主張の何が多くの読者の共感を呼んでいるのか? 経済産業省の本流を歩み、将来の事務次官候補とまで言われたエリート官僚が、なぜ閑職である「大臣官房付」という役職に2年近くも留め置かれていたのか。

官僚でありながら「公務員制度改革」に積極的に取り組もうとした古賀氏。そこには、「日本の病根」ともいべき根深い問題が隠されていた…。

「政治不信」という言葉をメディアでよく聞く。政治に関心のない無党派層が増えている、という世論調査もよく見かける。

一方、官僚は「天下り」「省益」というキーワードで語られる。古賀氏は、長年、政治家と官僚がもたらあいで作り上げてきたものが、すべて日本の病根になつており、それが政治不信やひいては何も変われ

ず改革できない停滞した現状の日本にあらわれていると主張する。

そこで、今回の総会では古賀氏ご本人にオフプレ話の数々を直接お聞きしていく。例えば、

- なぜ私は経産省と決別したのか
- 原発事故はなぜ「想定外」だったのか
- 「政治主導」はなぜ「官僚主導」に逆戻りしたのか
- 天下りはなぜダメなのか
- 官僚は本当に優秀なのか
- 誰が改革のシゴを外したのか
- 大震災をなぜチャンスに転化できなかったのか
- 震災復興を阻む既得権益者とは
- 復興増税はなぜ間違いないのか
- 日本は静かに沈んでいくしかないのか
- メディアの責任は何か、等々。

ご自身の官僚体験を入り口に日本の病根に深く切り込みながら、私たちは今、何に決別し何を選択すべきなのかを聞いていきます。

古賀さんに質疑応答する時間もいたたく予定です。直接質問をぶつけてみてください。

(株式会社アソコム代表取締役 高橋克佳 82年卒)

開催概要

- 日時 11年11月19日(土) 16:20~20:30 (開場 16:00)
- 場所 ①総会・講演会(アイビーホール青学会館 3階「ナルド」)
②懇親会(アイビーホール青学会館 2階「ミルトス」)
- 会費 7,000円(年会費2,000円+懇親会費5,000円)
(学生の懇親会参加費5,000円)
- 内容 ①総会・講演会 16:20~18:00
(会場 アイビーホール青学会館3階「ナルド」)
②懇親会 18:30~20:30
(会場 アイビーホール青学会館2階「ミルトス」)

(※)お申込み ①FAXは同封の総会案内裏面に必要事項を記入後
03-5724-4945
(マスコミ青山会事務局)まで
②Eメールは、info@mc-aoyama.netまで
締め切り 10月31日(月)

マスコミ青山会のホームページが新しくなりました。

<http://www.mc-aoyama.net>

【編集後記】

未曾有の震災からはや7ヶ月が過ぎ、被災地にも、幸い被害の少なかつた地にも、去年とは確かに違う夏が過ぎました。取材を重ねるにあたり、たくさんの方が、「自身のフィールドでそれぞれの想いを胸に、復興へ向けて励んでおられるのを目の当たりにし、胸が震える思いでした。形は違えど、皆の眼差しが復興へと向かっているのだと、実感した次第です。

最後までのご精誠に感謝するとともに、ご協力いただいた皆様に、あらためて御礼申し上げます。

(編集担当 鈴木章・渡部美南)
〒1800001 東京都武蔵野市吉祥寺北町3-12-6-1
(e-mail info@mc-aoyama.net)